



Part 1 (新着資料から)

〈BOOK〉『第十五改正 日本薬局方』

(厚生労働省 2006)

あらゆる工業製品の中で、医薬品製剤ほど原薬の製造から患者への適用に至るまで、数々の法律、ガイドス、ガイドラインや薬事行政機関による通達等によって厳しい規制と指導を受けているものはないであろう。これは医薬品が人の健康の維持と疾病の治療に深く関係しているからであり、医薬品によって死に至る場合もあることを考えると、当然のことである。

ここに紹介する日本薬局方(以下、局方と略。因みに薬局方という語は既に中国の宋時代(1107年)に見られ、我が国では江戸時代から広く世に使われ始めている)は、薬事法第41条によって医薬品の性状及び品質の適正を図るため、厚生労働大臣が、筆者も委員を務めている薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて定めた医薬品の規格基準書である。したがって、医薬品の適正な品質の保証に国家が深く関与することは重要な意義を持っており、局方の持つ使命は極めて重いといえる。局方は明治19年に初版が公布されて以来、今回で15回目の大改正であるが、第九改正(昭和51年)からは医療及び医薬品開発の進歩に柔軟に対応するために、5年毎に全面改正が行われている。また、最近では5年毎の改正の間に更に2回の部分改正が実施されており、追補として公布されている。15局は本年3月末に告示され4月1日から施行されているが、今回の改正にあたっては既に平成13年に基本方針が答申され、5本の柱が掲げられて審議が進められた。これらの中で特に重要なのは、①保健医療上重要な医薬品の全面的取載による充実化、②国際調和の推進、③最新の分析法の積極的導入である。①は有効性または安全性に優れた新薬はできるだけ速やかに局方に取載していこうということであり、

この方針に基づいて15局では遺伝子組換え医薬品等を含めて102品目が新規に取載された。この結果、過去最大の取載品目数(1483品目)となった。また従来の局方では医薬品各条は第一部と第二部に分けられていたが、薬事法の改正(平成14年)に基づいて、15局からはこの構成が変更された。すなわち、項目の配列は通則、製剤総則、一般試験法、医薬品各条、参考情報となり、一般試験法もカテゴリー別に配列される(従来は五十音別)など、利用性が一層高まった。また②については、より良い医薬品を1日でも早く患者へ、という医薬品開発の効率化を目的とした日米欧3薬局方の国際調和の推進をはかるため、調和された事項を速やかに局方へ取り込むことが検討された結果、24品目の添加剤と10の試験法が取載された。更に③では国際調和に伴い14試験法が改正され、4試験法が削除された。

ところで、今回の改正で学生諸君にとって最も重要なポイントの一つは、医薬品の日本名正名の改正である。この改正により薬効の本質成分が最初に書き表せることになり(例:酪酸ヒドロコルチゾン→ヒドロコルチゾン酪酸エステル)、英名の標記とも整合するとともに、医薬品が塩であるかエステルであるかの区別が明確になった。このような変更は各条医薬品中の約400品目に及ぶので、今後、局方名の正確な理解については十分な注意が必要である。なお、今春に実施された薬剤師国家試験では全240問中、局方に関わる事項が140問も出題されている。局方が薬学生にとっていかに重要であるかがわかるであろう。諸君は“薬学生のバイブル”として本書をフルに活用してほしい。 松田 芳久 記

もくじ CONTENTS

ブックガイド(新着資料から) 松田芳久……………1	グラフと表で見る図書館統計……………6~7
ブックガイドpart2(専門分野別) 和田昭盛……………2	薬剤師のためのDI資料(19) 長嶺幸子……………8
JDream II を利用しての文献検索……………3	お知らせ……………8
受入図書から……………4~5	



part 2 (専門分野別) BOOK GUIDE

構造有機化学・構造解析学の本

構造有機化学とは、原子の結合から分子軌道論などの基本原理をもとに有機化学の反応を理解することと、種々の異性体の可能性のある有機化合物の構造を決定することの2つの側面から成立している。本学並びに国家試験では、後者に重点のおかれた教科として扱われており、構造解析学とも呼ばれる。

構造解析といっても種々の機器を利用した分析法を用いて行なわれているが、一般的には赤外吸収 (IR)・核磁気共鳴吸収 (NMR)・質量分析 (MS) および紫外・可視吸収 (UV-VIS) の4種のスペクトルを利用しているが通例である。これらの方法は、有機化学の書籍の中でもある程度取りあげられているが、理論的な理解を深めるためにはそれで十分とは言い難く、成書を参照する必要がある。

まず、代表的な本として、R.M. Silversteinら著による「有機化合物のスペクトルによる同定法 (6版)」(荒木峻ら訳、東京化学同人) を挙げる事ができる。各々の方法の理論と共に、4つのスペクトル分析法を組み合わせ、構造決定の手順が具体的かつ簡潔に述べられている。小生が学部学生時代に第3版が改訂された折り、原書を研究室で1年間をかけた輪読したことは大変貴重な経験であり、未だに手元において参考にする事も多い。同種なものとしては、M. Hesseら著による「有機化学のためのスペクトル解析法」(野村正勝監訳、化学同人) があげられる。前書に比べ、理論的な解説やデータが豊富に記載されており、大学院生であれば是非とも手元において活用してもらいたい書である。

コンパクトにまとめられているものとしては、構造有機化学Iの教科書に使用されている伊藤允好・萩中淳著による「薬学機器分析 (3版)」(廣川書店)、日本分析化学会九州支部編「機器分析入門」(南江堂) や卯西昭信ら著の「有機化合物の構造とスペクトル」(三共出版) があげられる。これらの本では、理論的な扱いがほとんどでなのでスペクトル解析には、他の演習書を併せて参考にするのが望ましい。



和田 昭 盛
(生命有機化学研究室 教授)

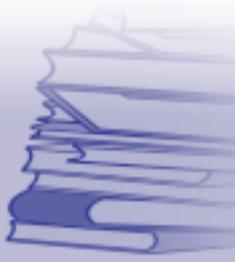
構造解析の第一歩は、スペクトルに慣れることである。できるだけ多くのスペクトルと接してその見方を修得してほしい。化学薬品の試薬メーカーであるアルドリッチ社ではNMRとIRのデータ集を出しているのがこれがお勧めである。本学でも、CD-ROM化された「FT-NMR Library with Spectral Viewer」および「FT-IR Library with Spectral Viewer」が図書館に設置されており、いつでも参照できるようになっているので活用してもらいたい。

演習書として初心者が初歩からステップアップしていけるような適当な本が見あたらないのが現状であるが、以下の書があげられる。宇野英満・築部浩編「はじめてのスペクトル解析」(丸善)、柿沢寛・楠見武徳著「有機機器分析演習—スペクトルによる構造決定法—」(裳華房) および新津隆士ら著「10年使える有機スペクトル解析」(三共出版) である。いずれも構造解析の実践書としてふさわしいものとなっている。

4種の分析法の中でも、赤外および核磁気共鳴はより複雑な化合物の構造決定に重要な役割を果たしており、分析法の発展と共に深い知識が必要とされるようになってきている。この要求にあった専門書としては、中西香爾著「赤外線吸収スペクトル—定性と演習—」(南江堂)、通元夫・廣田洋著「実践2次元NMR」(シュプリンガー・フェアラーク東京) や中西香爾編「チャートで見る超伝導FT-NMR」(講談社) がある。

構造解析を苦手とする学生も多いが、マスターするコツは、4種のスペクトル解析法において、それぞれの特性と解析の手順・方法を理解し、あとはそれらの知識を如何に効率良く応用していくかという点にある。どの教科でも同様であろうが、暗記すべきことと、暗記しなくて済むこと(応用して考えることで暗記する必要のないもの)を見極めていくことが大切である。基本となる解析原理はわずかなのだから、これを理解し応用できるようになってほしいものである。

自分の理解の度合いに応じて、前述の複数の書籍を組み合わせ有効活用することが望ましい。



JDream II を利用しての文献検索

図書館では2005年7月より、日本語で検索できる科学技術文献データベースJDream IIを契約しています。固定料金制の契約ですので、検索時間・回数を気にせず利用できます。

JDream IIは独立行政法人科学技術振興機構（JST）が作成しており、これまで「JOIS」、「JDream」として提供され

ていた情報サービスシステムが、2006年4月に統合されたものです。JDream IIにはいくつかのデータベースが含まれていますが、本学で契約しているデータベースは以下の表の通りです。これら以外にMedlineを日本語で検索することもでき、いくつかの無料の補助ファイルも利用できます。

表：利用可能なデータベース（JDream II検索ガイドより）

データベース名	収録情報	収録年代	収録件数
JSTPlus	科学技術（医学を含む）全分野に関する文献情報。世界50数か国の情報を含む	1981年4月～	約1,826万件
JST7580	科学技術全分野に関する文献情報。世界50数か国の情報を含む	1975年4月～1981年3月	約220万件
JMEDPlus	日本国内発行の資料から医学、薬学、歯科学、看護学、生物科学、獣医学、等に関する文献情報を収録	1981年4月～	約374万件
医学・薬学予稿集全文データベース	医学・薬学・看護学系学会より許諾を得た予稿集の全文	1999年～	約72万件

■ アクセス法

(1) <http://service.jst.go.jp/jdream2/loginIP1.html> にアクセス（図書館ホームページにリンクがあります。）

(2) IP認証方式（学内でのみ利用）ですが、名前の入力が必要です。（入力された名前はアクセスログ管理に利用されますが、本学では個人単位での管理はしていませんので、適当な名前を入力してください。）

■ データベース選択

科学技術全般ファイルと医学分野一般ファイルに分かれており、検索したいデータベースを選択しますが、最初はJSTマルチファイルの選択をおすすめします。古いデータも必要なときは、JST7580を含むマルチファイルを選択します。医学・薬学予稿集からの情報を検索したい場合は、該当箇所をクリックして検索します。

■ 検索モード選択

シンプルモードとコマンドモードがあります。コマンドモードは上級者向きですが、幅広く検索することができます。

■ 検索と結果

一般的なWeb上の検索と同じ感覚で検索できます。検索結果はダウンロード、印刷ができます。なかには「リンク情報」を利用して、本文を直接閲覧できるものもあります。トップページからダウンロードできる「JDream II検索ガイド」には詳細な説明が掲載されています。



データベース選択画面

最近ではインターネット上の一般的な検索エンジンで情報を得ることができますが、その検索結果には不確かな情報、信頼性の低い情報も含まれます。JDream IIの情報源は学術雑誌や専門誌、公共資料に限られており、信頼性の高い検索結果を得ることができます。日本語で検索できますので、学生の皆様も是非、利用してください。わからないことは、図書館でお尋ねください。

書名	著者名	出版社
転回期の科学を読む辞典	池内了	みすず書房
実験室の幸福論	落合洋文	ナカニシヤ出版
国際学会のための科学英語絶対リスニング	田中顕生他	羊土社
アインシュタイン、特殊相対論を横取りする	ジャン・ラディック	丸善
初歩から学ぶNMRの基礎と応用	竹内敬人他	朝倉書店
知っておきたい有機反応100	日本薬学会編	東京化学同人
演習で学ぶ有機反応機構	有機合成化学協会編	化学同人
バイオ研究がぐんぐん進むコンピュータ活用ガイド	門川俊明企画編集	羊土社
遺伝子の分子生物学	James D.Watson 他	東京電機大学出版局
RNAi法とアンチセンス法	関根光雄他編	講談社
わかる身につく医療コミュニケーションスキル	沢村敏郎他	メディカルレビュー社
いのちの始まりの生命倫理	島蘭進	春秋社
「健康によい」とはどういうことか	斎藤清二	晶文社
すべての医療スタッフのための使える!医療手話	藤岡哲弥	学習研究社
漢法を知る	伊沢凡人	中山書店
人間を科学する事典	佐藤方彦編	東京堂出版
酸化ストレスマーカー	二木鋭雄他編	学会出版センター
ストラクチャー・トリグリセリドの生化学と応用	原健次	幸書房
「くすりの情報」の鍵	有馬康雄	薬事日報社
薬が効かない!	三瀬勝利	文藝春秋
症例に学ぶEBM指向輸血検査・治療	大戸斉編集	医歯薬出版
ファーマコサイコロジー	有田悦子	ブレーン出版
医療現場に必要な薬学的知識の使い方	大井一弥他編	医薬ジャーナル社
カウンセリング論	北島謙吾編	慧文社
もう実習で困らない!患者とのコミュニケーション	松崎有子	医学芸術社
ヒヤリとしないための日常診療安全マニュアル	長谷川修編集	羊土社
患者さんに説明する生活習慣病の基準値	富野康日己編集	南江堂
抗菌薬・消毒薬Q&A	阿南節子編著	じほう
がん専門薬剤師を目指すための抗がん剤業務ハンドブック	国立がんセンター薬剤部編	じほう
予防医学事典	松島綱治他編集	朝倉書店
おまかせしない医療	神崎仁他	慶應義塾大学出版会
エビデンスに基づくヘルスケア	J.A. Muir Gray	エルゼビア・ジャパン
誰も書かなかった厚生省	水野肇	草思社
命に値段がつく日	色平哲郎他	中央公論新社
クリニカルパスがかなえる!医療の標準化・質の向上	立川幸治他編集	医学書院
新・食べるな、危険!	小若順一	講談社
薬剤師のための感染制御マニュアル	日本病院薬剤師会編	薬事日報社
アスベスト汚染と健康被害	森永謙二編著	日本評論社
健康格差社会	近藤克則	医学書院
薬科大学において「薬剤師教育」と「医療教育」はなされているか	砂野哲	薬事日報社
新しい時代に求められるMR像	医薬情報担当者教育センター編	薬事日報社
服薬援助のための医療コミュニケーションスキル・アップ	町田いづみ	星和書店
薬局の質を上げる業務改善	荒井なおみ他	南山堂
薬局薬剤師の患者応対	岡村祐聡	エルゼビア・ジャパン
これからの薬剤情報	折井孝男編	中山書店
患者さんによくわかる薬の説明	鈴木康夫編集	金原出版
改良型新薬創製のための薬科学	David A.Williams 他編著	テクノミック
医薬品のプロセス化学	日本プロセス化学会編	化学同人
本当に患者の利益になるPOSと薬歴の活用	上町亜希子	薬事日報社
錠剤・カプセル剤粉碎ハンドブック 第4版	佐川賢一他編著	じほう

(化学、医学、薬学分野より一部抜粋)

『ヘウレーカ！ ひらめきの瞬間 -誰も知らなかった科学者の逸話集-』

表題に掲げられた「ヘウレーカ！」はアルキメデスが劇的な発見(アルキメデスの原理)をした時の叫び声だそうです。次に示したお話をご存知ですか。サッカーの試合中に物理計算に夢中になったボーア。卵を手にもって懐中時計をゆでてしまったニュートン。また、新しい薬の発見の中にもエピソードが一杯です。思わず吹き出す笑い話から感動話まで、歴史上の偉大な科学者にまつわる逸話が紹介されています。(O. M.)

ウォルター・グラットザー 著
安藤喬志、井山弘幸訳 化学同人



『建物とストレスの話』

建物には常にストレスが加わっている。医学ではよく聞かぬが工学でも同じ色々なストレスがかかっている。阪神淡路大震災その強さ大きさに自分は何も出来ずにただ揺れがおさまるのを待つだけの地震体験から、この力をどのように受けるかの耐震対策の重要性を日本文化の優れた例を通じてわかり易く知らせてくれる。

建築構造の好きな私には格好の一冊であり、一般の人にもわかり易い内容である。(R. S.)

田口武一著 井上書院



『この国のけじめ』

今、わが国に必須の図書が世に出た。数学者である著者は、作家新田次郎、藤原ていの次男であり、先に『国家の品格』(新潮新書)、『祖国とは国語』(新潮文庫)等を著して注目を集めた。今日の日本人が失ってしまった祖国への誇りと自信、日本の形について、歯切れのよい文体で鋭く指摘している。鮮度あふれる、読み応えのある一冊である。(H. M.)

藤原正彦著 文藝春秋



『ハル 哲学する犬』

今の世の中、人々は日々の忙しさに追われ、ゆとりを失って生きている人が多いと思う。ふと書店で若草色の表紙で可愛い犬の描かれた本が目にとまった。手に取り中を見ると何と心優しい、心温まる詩が並び可愛い絵が誘っている。一気に読み再び味わいながらゆっくりと読む。訳者の蓮池氏の心も理解できる。なんとなく心が温かくゆとりが生まれた。ふと息苦しくなった時読んで見ては・・・(N. I.)

クオン・デウォン著 蓮池薫訳 ポプラ社



『陰日向に咲く』

T Vで活躍するお笑い芸人・劇団ひとりのデビュー小説です。T Vの中の彼の芸風とは全く違う繊細な物語のオムニバスなのですが、それぞれの物語が絶妙に絡みあっているため、より具体的に本の中の世界が感じられる面白い一冊です。

この本を読めば彼の多才さに魅了され、劇団ひとりファンになること間違いなし!

劇団ひとりファンの方も、そうでない方も一度読んでみてください。(M. M)

劇団ひとり著 幻冬舎



『管仲 (かんちゅう) (上・下)』

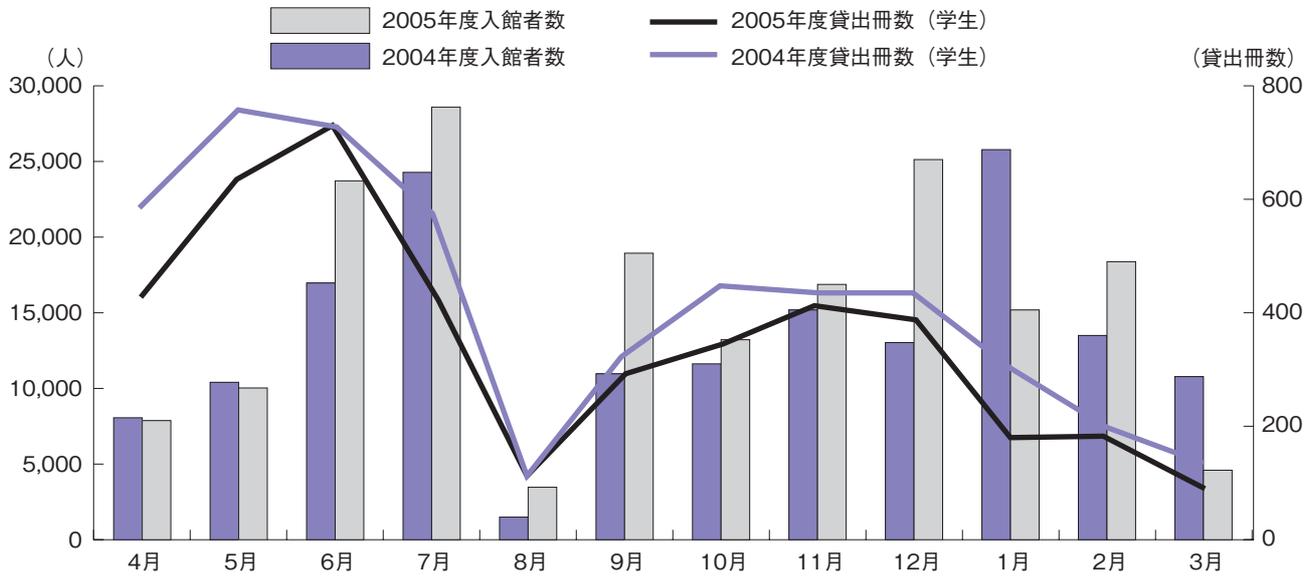
「管鮑 (かんぼう) の交わり」って聞いた事が有りますか? 友を助けるとはどういう事か、献策や状況判断とは何か、等についての小説。『史記・晏管列伝』『春秋左氏伝』等の史料を縦糸に、架空の登場人物を横糸に配して、古代中国史を活々とした物語に仕立ててあります。「倉廩実知礼節、衣食足則知栄辱」(必要な物が十分に有れば人として正しい判断がわかる、の意) 皆さんはどうですか? (H)

宮城谷昌光著 角川書店



グラフと表で見る図書館統計

1 月別入館者(延べ)と学部学生貸出冊数



入館者など	2004年度	2005年度	貸出	2004年度	2005年度
開館総日数	262日	263日	貸出総冊数(全体)	6,675冊	7,592冊
入館者総数	162,283人	186,073人	貸出総冊数(学部学生)	5,057冊	4,268冊
1日平均入館者数	619人	708人	1日平均貸出冊数(学部学生)	19冊	16冊

2 電子ジャーナル利用統計

今回は電子ジャーナル利用統計をまとめました。本学で最新刊行物の電子ジャーナルが利用できる学術雑誌(洋雑誌:国内欧文誌を含む)のタイトル数は表1に示した通りです。個別契約の他、日本薬学図書館協議会電子ジャーナルコンソーシアムへの参加により、約1,330タイトルの電子ジャーナルが閲覧できるようになっています。最近では、オープンアクセス誌も増えてきていますので、実際に利用できる雑誌はかなりの数になります。

ここでは、COUNTER準拠の利用統計(下参照)から取得したダウンロード数(HTMLファイル、PDFファイルへのアクセス数)を用いてグラフと表を作成しました。

表1: 電子ジャーナル契約数

契約種(コンソーシアム名)	タイトル数
個別契約	50タイトル
American Chemical Society	26タイトル
Blackwell Publishing	406タイトル
ScienceDirect	102タイトル
Oxford University Press	59タイトル
Science OnLine	2タイトル
SpringerLink	502タイトル
Wiley InterScience	186タイトル

2006年8月現在

電子ジャーナル利用統計: COUNTERについて

各出版社から提供される電子ジャーナル利用統計の基準を決めるため2002年にProject COUNTER (Counting Online Usage of Networked Electronic Resources)が発足した。2003年に実務指針が発表され、電子ジャーナルについては論文フルテキストのダウンロード数を基準にした利用統計が各出版社から提供されるようになった。現在は、Science Citation Index 収録論文の60%がCOUNTERに準拠した利用統計を提供している。

■ タイトル別電子ジャーナルアクセス統計

表2に2006年1月から6月までの6ヶ月間のアクセス数をまとめました。今回、調査したタイトル数は1,314タイトルですが、そのうちの約24%の雑誌に3回以上のアクセスがあり、1日（日祝日を除く）の論文フルテキストアクセス回数は約134回です。

表3には電子ジャーナルアクセス数ベスト10を示しました。

The Journal of Biological Chemistryは2006年に冊子体契約から電子ジャーナル契約に切り替えましたが、アクセス数は驚異的な数字を示し、論文フルテキストに1日約18回アクセスしていることとなります。また、ベスト10タイトルへのアクセス数合計は全体の44%を占め、本学コア雑誌へ集中してアクセスされていることがわかります。

表2：アクセス統計 (2006/1～2006/6)

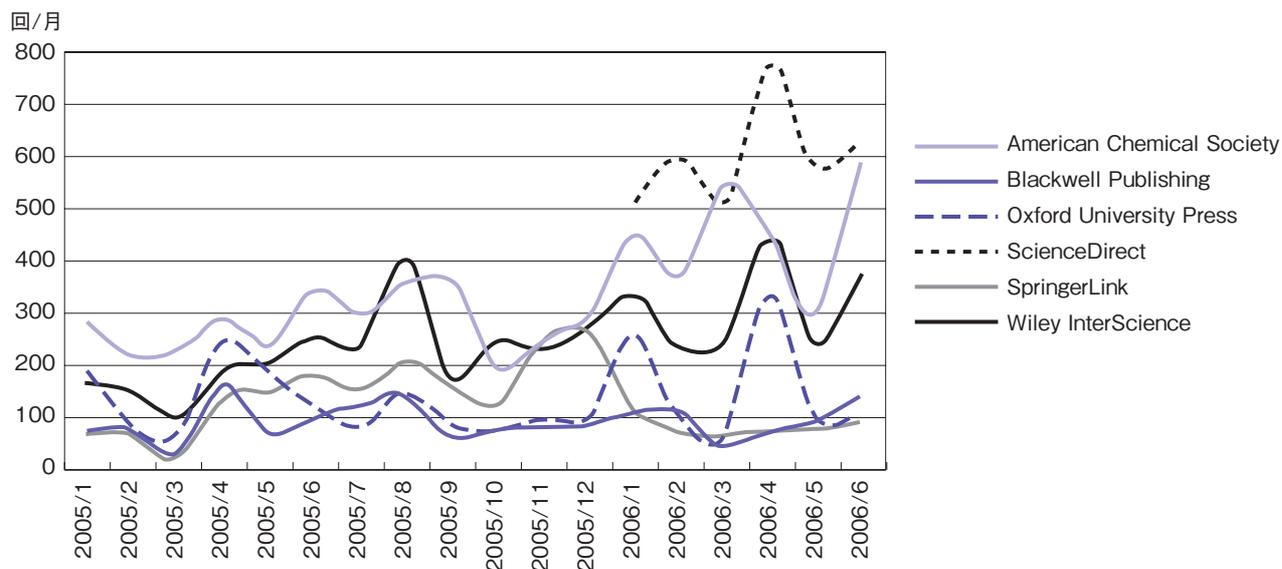
	調査 タイトル数	アクセス数3回以上合計		1日平均 アクセス数 (日祝日を除く)
		タイトル数	アクセス数	
継続購入誌	86	82	13,844回	107回
非購入誌 ^{注)}	1,228	236	3,523回	27回
合計	1,314	318	17,367回	134回

注) コンソーシアム参加により利用可能な雑誌

表3：電子ジャーナルアクセス数ベスト10 (2006/1～2006/6)

順位	誌名	アクセス回数	提供元
1	The Journal of Biological Chemistry	2,411	HighWire Press
2	Tetrahedron Letters	826	ScienceDirect
3	Organic Letters	734	American Chemical Society
4	Journal of the American Chemical Society	690	American Chemical Society
5	Angewandte Chemie International Edition	666	Wiley InterScience
6	Proceeding of the National Academy of Sciences of USA	597	HighWire Press
7	The Journal of Immunology	504	HighWire Press
8	Endocrinology	480	HighWire Press
9	The Journal of Organic Chemistry	390	American Chemical Society
10	Cancer Research	319	HighWire Press

■ コンソーシアム別電子ジャーナルアクセス数



コンソーシアム別に2005年1月～2006年6月のアクセス数をグラフに示しました。全体的にアクセス数は増加傾向にあります。契約条件などが異なりますので、一概に比較できませんが、2006年から契約を開始したScienceDirectへのアクセスが最も多くなっています。

薬剤師のためのDI資料 19

症例チャートからみる服薬指導ガイド 2005-06 -薬学的管理とその解説-

日本薬剤師研修センター 編集
南山堂 2005

本書は、薬物治療において真価を発揮すべき薬剤師のための指導書として2003年に初版が刊行された。初版の基本線は、薬物治療において薬剤師が行う薬学的管理の要点を知り、適切な薬学的ケアを患者に提供することを目的とするというものであった。今回、基本路線はそのまま、初版より更に症例を増やし、代表的な27症例について作成されている。

各疾患について、「症例チャート」「疾患の概要」「薬学的管理事項とその解説」そして「患者指導」の項目について

記載され、実践的で活用しやすくなっている。症例チャートでは、入院時の確定診断名、現病歴、既往歴等の患者背景、検査値の変化や症例上重要な薬学的管理事項が示されている。疾患の概要では治療方針や治療のフローチャート等が付されている。また薬学的管理事項とその解説では治療上の問題点を具体的にあげ、その対応についてQ&A方式で解説されている。本書は医療教育の充実に重要な役割を果たすものと思われる。

長嶺 幸子 記

お知らせ

- 4階書庫、指定参考書の蔵書点検及び書架整理を行いました。
書籍及び、資料の利用しやすさを増すために例年行っているものです。
- 「第十五改正 日本薬局方」（ブックガイドPart.1参照）の条文と注釈・解説書（廣川書店）等の資料も整備しています。こちらも併せてご利用下さい。
- 「目で見える薬理学入門 第2版」シリーズの購入が完結しました。
この資料は昨年度より、「日本私立学校振興・共済事業団」の「経常費特別補助金」に申請していたものです。貸し出しもできますので、利用をお待ちしています。
- 昨年、マルチメディア整備として購入しました、バナープリンターについて学会用ポスターの印刷等に多数の活用をいただき、ありがとうございます。
- SciFinder Scholar 2006 for Mac OS X がリリースされました。図書館ホームページにセットアップ手順へのリンクがあります。
- 現行の図書館システムの運用も7年目をむかえ、昨年のアンケートでのご指摘にもありました様に、次世代のシステムへの更新を検討中です。それに引き続き、館内各所の備品の老朽化が目立ってきましたので、こちらの更新についても検討しています。より良い図書館として利用していただけるように、ご意見などが有りましたら図書館へお申し出ください。
- 図書館利用時の飲食や席取りの禁止など、マナーの向上にご協力ください。